





©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます オーケストラの響きとともに広がる<新しい景色>を 心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー











9.16(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第958回サントリー定期シリーズ

9.17(金)19:00開演 サントリーホール 大ホール

第959回オーチャード定期演奏会

9.19(日)15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン

コンサートマスター: 近藤 薫

ブラームス:

交響曲第3番 へ長調 Op. 90 (約35分)

- I. アレグロ·コン·ブリオ
- Ⅱ. アンダンテ
- Ⅲ. ポーコ・アレグレット
- IV. アレグロ ウン・ポーコ・ソステヌート

ブラームス:

交響曲第4番 木短調 Op. 98 (約45分)

- I. アレグロ・ノン・トロッポ
- II. アンダンテ·モデラート
- III. アレグロ·ジョコーソ
- IV. アレグロ·エネルジーコ·エ·パッショナート

文 J と 庁 Agenty for Caltural Affairs Formation of Landar

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション (9/17)、公益財団法人 三菱 UFJ信託芸術文化財団 (9/17)、公益財団法人 三菱 UFJ信託芸術文化財団 (9/17)、公益財団法人 花王 芸術・科学財団 (9/17)

協力: Bunkamura (9/19)

※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

- ※開演間際の入場、再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお 席への着席をお願いすることがございます。
- ※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いたします。

出演者プロフィール



©ヴィヴァーチェ

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor 東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放響音楽監督および首席指揮者(1984~1989)、パリ・オペラ座バスティーユ音楽監督(1989~1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997~2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000~2015。現在は名誉音楽監督)、ソウル・フィル音楽監督(2006~2015)、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者(2012~)など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名誉指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

楽曲紹介

解説=柴辻純子

9/16

9/17

9/19

今年7月、名誉音楽監督チョン・ミョンフンが1年4か月ぶりに東京フィルの指揮台に登場した。2009年以来、12年ぶりとなるブラームス交響曲全曲(第1番~第4番)シリーズ。第1番の序奏はゆっくりと、互いを確かめ合いながら進められ、派手に鳴らさず音楽を深めた。一方、第2番では、明るく開放的に音色を響かせ、劇的な高揚感をもたらし、マエストロの対照的なアプローチが、それぞれの交響曲の個性を際立たせた。そして今月は、後半の第3番と第4番。緻密かつ複雑に作り込まれたこれらの交響曲を、マエストロはどのように作り上げ、シリーズとして完結させるのか。その演奏に期待は高まるばかりである。

ヨハネス・ブラームス (1833-1897) の交響曲第3番と第4番は、いずれも夏の休暇中に滞在先の風光明媚な保養地で作曲された。当時のブラームスは、冬は自作を中心とした演奏旅行、作曲は夏に集中的に行い、それ以外はウィーンで作曲の構想と仕上げで1年を過ごしていた。第3番は、ブラームス独自の調感覚と統一動機による手の込んだ作りで、特に間奏曲 (インテルメッツォ) の性格をもつ第3楽章は、美しい主題と響きで、まるで一篇の詩のように世界が広がる。第4番は、小さな単位の基本動機から主題を組み立て、終楽章ではパッサカリアというバロック時代の変奏曲形式とソナタ形式を組み合わせるなど、十分な時間をかけ、慎重かつ丁寧に作られた。孤独と孤高。ブラームスが晩年に達した静寂の境地は、この最後の交響曲から始まっていった。

ブラームス 交響曲第3番 へ長調 Op. 90

1883年5月、50歳の誕生日を迎えたブラームスは、ケルンの音楽祭に参加し、 リューデスハイムに住むベッケラート夫妻のもとを訪れ、そのまま近くのライン河 に面した保養地ヴィースバーデンで夏の休暇を過ごした。親しい友人たちと穏 やかな時間を過ごし、さらに24歳年下のアルト歌手ヘルミーネ・シュピースの存在 は、ブラームスの胸を熱くさせた。その年の1月、彼女の歌唱の素晴らしさに魅了 されていたブラームスは、ヴィースバーデンでの再会を喜び、交流を深めた。新し い交響曲(交響曲第3番)に着手すると作曲は順調に進み、ひと夏で完成した。

交響曲第3番は、同年12月2日にウィーン楽友協会でハンス・リヒターの指揮で初演された。聴衆から高い評価を受け、リヒターは、「ブラームスの《英雄》」と称え、シューマンの妻クララは、「森の牧歌」と呼んだ。確かに彼らの言葉どおり、交響曲全体は大らかで堂々としているが、そこにはふとした翳りもみられる。この交響曲では、冒頭のファーラ b・ファの音型が全体を統一するモティーフとなるが、これは主調のへ長調ではなく、へ短調に属する響きで、短調に引き寄せる力が働く。そのため、当時「快適と平穏」の調性とされたへ長調に落ち着かず、長調に憧れつつも到達しない。後半の2つの楽章も、短調で書かれ、第4楽章はコーダで長調に転調するが、ここでも長調と短調の間を揺れ動く。こうしたもどかしさは、この作品に独自の性格を与えていると言えるだろう。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ、へ長調。ソナタ形式。管楽器による統一動機に続いて、ヴァイオリンによる情熱的な第1主題が現れ、舞曲風の第2主題はクラリネットで静かに歌われる。

第2楽章 アンダンテ、ハ長調。変則的なソナタ形式。クラリネットの素朴な第1主題、木管の厳かな第2主題(再現部に現れない)で進められる。

第3楽章 ポーコ・アレグレット、ハ短調。3部形式。チェロで始まる哀愁帯びた美しい主題は、変イ長調の中間部をはさみ、ホルンで再現される。

第4楽章 アレグロ、へ短調。ソナタ形式。不穏な第1主題はささやくように始まり、ここに第2楽章第2主題をしのばせ、次第に激しさを増す。ダイナミックな第2主題とともに展開し、最後(ウン・ポーコ・ソステヌート)は、へ長調に転じ、両端楽章が消え入るように終わるのは異例だが、第1楽章と同じように静かに結ばれる。

[作曲年代] 1883年 [初演] 1883年 12月2日 ウィーンにて、ハンス・リヒター指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による

[楽器編成] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部

ブラームス

交響曲第4番 木短調 Op.98

交響曲第2番と第3番はひと夏で作り上げたが、第4番は、前半の2楽章が1884年、後半は翌年に書かれ、2年がかりで完成させた。初演に先立ち、いつものように2台ピアノで親しい友人たちの前で試演したが、その難解さに友人たちは戸惑い、ブラームスも無言で、気まずい沈黙が流れたという。なぜ彼らが危惧したか。音楽の構成の複雑さや緻密さに加え、第1楽章の3度下行音程で作られる第1主題の不安定さは、ブラームス後期の作品の特徴である厭世的な音調を色濃くし、第2楽章ではルネサンス時代まで教会音楽で用いられたフリギア旋法を、終楽章ではバロック時代の変奏曲の一種のパッサカリア形式を用いて、古い時代へと眼差しを向けたからだ。しかし、彼らの懸念は杞憂に終わった。1885年10月25日のブラームス自身の指揮によるマイニンゲンでの初演は大成功を収め、すぐにヨーロッパ各地で演奏されるようになった。

それでも、ブラームスの音楽を保守的だとするワーグナー派から「創造力が貧困」で「反動的」と批判を受けた。だが、後に新ウィーン楽派のアルノルト・シェーンベルク(1874-1951)が、交響曲の組織的に構成された主題に新しさを見出したように、すでにそこには新しい時代の萌芽が含まれていた。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポ、ホ短調。ソナタ形式。ため息をつくようなヴァイオリンの第1主題で始まる。やがて管楽器のリズミックな動機を合図に、第2主題がチェロで朗々と歌われる。

第2楽章 アンダンテ・モデラート、ホ長調。ソナタ形式(展開部を欠く)。フリギア旋法(ミファソラシドレミ)に基づく導入から、ささやくような第1主題が現れ、第2主題はチェロの穏やかな歌となる。

第3楽章 アレグロ・ジョコーソ、ハ長調。ソナタ形式。力強い第1主題は野趣 に溢れ、優美な第2主題はヴァイオリンで静かに示される。 9/16

9/17

9/19

第4楽章 アレグロ・エネルジーコ・エ・パッショナート、ホ短調。J.S.バッハのカンタータ第150番「主よ、われ汝をあおぎ望む」の終曲の低音主題をもとにした変奏曲。主題に30の変奏が続き、長大なコーダ(ピウ・アレグロ)で結ばれる。

[作曲年代] 1884~1885年 [初演] 1885年10月25日 マイニンゲンにて、作曲者自身の指揮でマイニンゲン宮廷楽団による

[楽器編成] フルート2 (2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、弦楽5部

しばつじ・じゅんこ/東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業、同大学研究科、および慶應義塾大学大学院修士課程修了(音楽学専攻)。主な研究領域は、新ウィーン楽派を中心とする20世紀音楽。NHK-FMに司会、解説で出演するほか、音楽専門誌等に寄稿。著書に、『オックスフォード・オペラ大事典』(共訳、平凡社)、『クラシック作曲家事典』(共著、学研パブリッシング)などがある。

特別記事



©K Miura

名誉音楽監督マエストロ チョン・ミョンフンが語る

ブラームス 交響曲の全て(抜粋)

2001年以来、東京フィルハーモニー交響楽団にポストを持つ現・名誉音楽 監督のチョン・ミョンフン。同楽団と親密な関係を築くマエストロに、ポスト就 任20年の思いや2021年の定期演奏会について話を聞いた。

*本記事は2020年12月に実施した取材を抜粋·再掲したものです。

――この20年の間に東京フィルとの関係はどう変化してきましたか?

「東京フィルとは20年間、常にポジティブな関係を続けてきました。これはある意味奇跡的なことです。人との関係において最良の到達点は"信頼"だと思います。お互いが相手の事を考え、疑いがどんどん無くなっていく。ただ、そこに至るまでには時間と段階を要します。まずはプロフェッショナルなレベル、そしてそれがうまく行った次に良いプロフェッショナルなレベル、最後にパーソナルな関係です。私は今、東京フィルのメンバー一人ひとりに対してこころから幸福を願い、愛情を感じています」。

―― 現在の東京フィルのキャラクターをどう捉えていますか?

「難しい質問なので、個人的な答えを言うと『東京フィルは自分のことを理解してくれる』。大したことではないように聞こえるかもしれませんが、これはプロの世界では滅多にありません。

指揮者はまずテンポなどの基本的なことを腕の動きで分かってもらう必要があります。そして、できれば腕を見て自分の心を分かってほしいと思っています。しかしそれはとても難しく時間がかかります。そうした意味で、東京フィルへの最高の賛辞として『自分のことをよく分かってくれてありがとう』と感謝したいと思います」。

----2021年は東京フィルにとってどんなシーズンにすべきとお考えですか?

「私の音楽上の目標が一つだけあります。それは『昨日よりも少しより良く演奏すること』です」。

――7月と9月の定期はブラームスの交響曲全曲演奏ですね。2009年にも東京フィルで全曲演奏をされていますが、今このチクルスを行う理由は? また前回と今回ではどんな違いが生まれるとお考えですか?

「私は以前よりもさらに勉強しています。先ほども言った『少しでも昨日より良く演奏すること』は、段々楽になるのではなく、逆に難しくなっていくので、もっと勉強しなければならなくなるのです。本当の試金石は『より良く演奏したい』という意思を持てるかどうか。そして作品があまりに偉大なので、作品への愛がより良く演奏するよう、より深く勉強するよう要求します。

ただこうした例もあります。私は昔、ブラームスの4番を非常に難しいと感じていました。しかしある日、なぜか楽になったように感じたのです。その時私は、ブラームスが4番を書いた歳、53歳になっていました。そこで気づいたのはすべての人間が色々な共通項を持っているということ。もちろん天才には特別な部分がたくさんありますが、共通項もあります。53年間生きてきたら他の53年間生きてきた人と共通項があり、23年生きてきた人にはできないことができる。以来第4番との関係が深まりました。

――マエストロが思うブラームスの交響曲の特徴や魅力、さら には全曲を聴く意味をお聞かせください。

「ブラームスは交響曲第1番の作曲に長い時間をかけたので、発表した時にはすでに十分経験を積んだ作曲家になって



いました。従って4曲に大きな音楽的違いはないのですが、それでも違いがある。

私は時々、この曲は何の動物に当たるだろう?と考えます。1番は力を持ったライオン、しかし4番は何か? 先見の明で知られるシューマンがブラームスについて言ったのは『世界は鷲を見つけた』でした。交響曲第4番の第4楽章に至った時、ブラームスは遂に空へ飛翔する力を身につけます。もはやライオンではなく鷲なのです。1番は物理的に力強いが、4番では心が飛翔する。1番から4番に向かって素晴らしい弧が描かれていると思います。ですので、1番から4番まで聴いて、物理的な状態から心が高揚するレベルに跳躍する過程を辿るのはとても興味深いと思います」。

マエストロにとってブラームスはどんな存在ですか?

「学生の頃は、白く長い髭を生やした有名なブラームスの肖像を見ていたので、ゆっくりした重たい音楽を書くお爺さんだと思っていました。しかし今ではまったく違うイメージを抱いています。彼には動物的な野蛮人の面、知性や芸術以前に内側で燃えている生の力があるのです。私にとってブラームスの音楽は、突き破って飛び立つのを待っているような燃える情熱です。多くの物事の熾烈さは――殊に音楽においては――ある種の苦闘から生まれると思っています。例えば種子の中から外に出ようとしているエネルギーは膨大なものです。その種子が天才の中にあるものだったら、どんなエネルギーが解き放たれるのか想像に難くありません。これがブラームスについていつも感じることであり、内面の熾烈さにおいて彼を凌ぐと感じられる作曲家はベートーヴェンだけです」。

―― 最後に日本のお客様へのメッセージを。

「東京フィルは東京の私の家族ですが、20年経った今、お客様ももはや無名の 観客ではありません。私にとっては友だちに向けて演奏している感覚です。です から日本の友人の皆様にまたお目にかかれるのを楽しみにしています。

私たちを支えてくれているすべての人に感謝を伝えるために自分は音楽をやっている。私が友だちのために演奏する時、感謝を表そうとしている。本当にそうだ。それが私の唯一のメッセージです。ありがとう、どうぞお元気で、2021年が皆様にとって本当に素晴らしい年になりますように」。

取材·文:柴田克彦

The 141st Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. Sep. 16, 2021, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 958th Suntory Subscription Concert

Fri. Sep. 17, 2021, 19:00 at Suntory Hall

The 959th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Sep. 19, 2021, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Myung-Whun Chung, conductor

Kaoru Kondo, concertmaster

Brahms:

Symphony No. 3 in F major, Op. 90 (ca. 35 min)

- I. Allegro con brio
- II. Andante
- III. Poco allegretto
- IV. Allegro Un poco sostenuto

Brahms:

Symphony No. 4 in E minor, Op. 98 (ca. 45 min)

- I. Allegro non troppo
- II Andante moderato
- III. Allegro giocoso
- IV. Allegro energico e passionato

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council, Rohm Music Foundation (Sep. 17), The Mitsubishi UFJ Trust Foundation for the Arts (Sep. 17), The Kao Foundation for Arts and Sciences (Sep. 17) In Association with Bunkamura (Sep. 19)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit
 or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be
 minimally disturbed.
- If you enter or reenter just before or in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

Artists Profile



©vivace

Myung-Whun Chung, conductor

Honorary Music Director of the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (LDpéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000-2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2015, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001-2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

16 Sep

17 Sep

19 Son

Brahms: Symphony No. 3 in F major, op. 90

Brahms began working on his Third Symphony in 1882, with most of the work done between May and October of the following year. The premiere went to Hans Richter and the Vienna Philharmonic, who had also premiered the Second Symphony six years earlier, on December 2, 1883. Brahms received an initial fee of U.S.\$9,000 upon publication, a princely sum in those days.

The symphony opens with a motto that will dominate not only the first movement but the entire symphony. The rising sequence of three notes functions as a kind of musical genetic code that will determine the nature of all that follows. It will be heard innumerable times throughout the work, sometimes prominently by itself, sometimes submerged in an inner voice, sometimes transposed or forming part of a longer line. The movement's urgent, plunging first theme is offset by one of contrasting nature – genial and lyrical – played first by the solo clarinet, then by violas and oboe.

The simple but sublimely beautiful opening theme of the second movement, music of pastoral loveliness, is written in four-part harmony, much like a Bach chorale. Clearly audible at the end of the phrase is the now-familiar motto. Clarinets and bassoons are the featured instruments, as they are for the second subject – a plaintive, nostalgic, gently rocking theme that will play a major role in the finale as well.

A lyrically flowing theme of autumnal beauty and infinite yearning sung by the cellos opens the third movement. Not only is this theme of unusual length, but it repeats and develops continuously, passing through other sections of the orchestra in a seamless flow. Eventually it pauses to allow the appearance of a graceful new subject to be presented by the woodwinds, which begins the second part of the movement. The first theme then resumes in the warm

tones of the horn, then the poignant oboe, and finally violins soaring sweetly in their uppermost register. In no symphony does Brahms exploit the warm, rich sounds of mid-range woodwinds (especially clarinets and bassoons) and horns to the extent he does here in the inner movements of the Third.

The finale begins with darkly mysterious murmurings, first in the strings, then the woodwinds. We catch a brief reference to the second theme from the second movement, then a sudden violent outburst from the full orchestra. More outbursts follow. The music then broadens out into a grandly heroic, soaring theme in C major for cellos and horn. A further theme appears for full orchestra in C minor – strongly rhythmic, granitic in its towering strength. Brahms spreads these five musical ideas out in a vast mosaic of cogent design and unassailable logic. The extended coda grows ever more autumnal in hue and nostalgic in mood as it develops the theme brought back from the second movement in warmly glowing sonorities. The three-note motto makes its final appearances, now in a mood of infinite tenderness and resignation, first by the oboe, then by the horn, and finally, as if setting the seal of benediction on the symphony, by the flute.

It is interesting to note that this is the only well-known symphony in which all four movements end quietly. Furthermore, as the Third is the only Brahms symphony to end in this manner, it alone of his symphonies is often heard on the first half of a program.

JOHANNES BRAHMS: Born in Hamburg, May 7, 1833; died in Vienna, April 3, 1897

Work composed: 1883 World premiere: December 2, 1883, in Vienna by the Vienna Philharmonic conducted by Hans Richter Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, contra bassoon, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, strings

16 Sep

17 Sep

19 Sep

Brahms: Symphony No. 4 in E minor, Op. 98

It was Brahms's custom to spend the summer months in quiet, rustic surroundings amidst lakes and mountains. The summers of 1884 and 1885 he passed in the Austrian Alpine village of Mürzzuschlag. Here he wrote his Fourth Symphony. He made a two-piano arrangement and performed it with Ignaz Brüll for a select company of friends and musicians, including Hans Richter, C.F. Pohl and Eduard Hanslick. Their response, which should have been enthusiastic, was decidedly cool, and they predicted a grim future for the symphony. But at the premiere, which took place in Meiningen on October 25, 1885, the public applauded warmly. The same public acceptance occurred at concerts given in following weeks in Frankfurt, Essen, Elberfeld, Utrecht, Amsterdam, The Hague, Krefeld, Cologne and Wiesbaden. Only Vienna found it difficult to understand, and that was probably because of inadequate preparation by that city's orchestra.

The symphony opens with a gesture that suggests the work has been in progress for some time, and that we have entered its realm in mid-point. The tiny two-note cell of "short-long," heard at the very outset in the violins, becomes the main building block, or musical genetic code, if you like, upon which the entire movement is based. Other themes are heard too, but the two-note motif is never far away, often lurking in accompaniment figuration or in a secondary idea. The second subject in this sonata-form movement is introduced by a fanfare figure in horns and woodwinds, which leads into the soaring, lyrical theme for cellos and horn. The horn (doubled by oboe) also gives the first statement of the closing theme in a more genial and relaxed mood than hitherto encountered.

The slow movement is unusual in that it is founded on the same keynote as the first – E. (Composers usually took care to provide a contrasting tonality after the weighty first movement.) With E minor still ringing in our ears from the first movement, two horns proclaim a motif beginning on the note E, but Brahms delays confirmation of the idyllic E major tonality for some time. The movement moves through a cosmos of moods, from autumnal melancholy

and melting lyricism to forbidding austerity and stern grandeur, expiring to the same horn motif that opened the movement. Brahms's friend Elisabeth von Herzogenberg commented on the gorgeous, heavenly cello theme: "How every cellist ... will revel in this glorious, long-drawn-out song breathing of summer!"

The third movement is usually described as a scherzo, though Brahms did not call it that. In its massive orchestration, which includes timbres unusual for Brahms (piccolo and triangle), we find an infectious, virile spirit that remains etched in the memory far more powerfully than any particular melodic idea.

The Finale is the most unusual movement of all, employing as it does the chaconne technique – a compositional process popular in the Baroque period in which an entire piece is built over a continuously recurring pattern of chords. Brahms took his theme from Bach's Cantata No. 150 (*Nach dir*, *Herr, verlanget mich*), which is heard at the outset by the entire wind choir, including trombones (their first entry in the symphony!). The chaconne was out of fashion in Brahms's day, and had never been used in a symphony before, but his interest in older musical forms, particularly fugue and counterpoint of all types, and his inner need to rise to the challenge, provided the impetus. The potential pitfall of writing a chaconne lies in the danger of monotony – using those same few chords over and over again. But never in the thirty continuous variations that follow the presentation of the eight-bar "theme" (plus four more in extended versions in the coda) do we feel an absence of momentum, an overuse of tonic harmonies, a sense of tedious regularity, or anything less than total mastery and economy of means.

Work composed: 1884-1885 World premiere: October 25, 1885, in Meiningen, conducted by the composer Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, contra bassoon, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, triangle, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, Robert Markow now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

16 Sep

17 Sep

19 Sep

2021 Season Subscription Concerts Lineup

Join us for the ultimate concert experience of our concert series below. For details, please access our website! https://www.tpo.or.jp/en

November

Mon. Nov 1, 19:00 at Suntory Hall

Wed/Holiday Nov 3, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Thu. Nov 4, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

conductor: Andrea Battistoni
flute: Tommaso Benciolini

— Japan Premier of Battistoni's Flute Concerto —

Battistoni:

Flute Concerto "The Garden of Delights" (Japan Premiere)

Tchaikovsky: Symphony No. 5 in E minor, Op. 64



Single tickets available

Inquiries about tickets: Tokyo Phil Ticket Service

 $tel:\ 03\text{-}5353\text{-}9522\ \ \text{(weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)}$

News!

The OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century Symphonic Category

Tokyo Phil, conducted by Andrea Battistoni, our Chief Conductor, has won the 2021 OPUS KLASSIK Prize in the 20th/21st Century symphonic category.

For details:

OPUS KLASSIK Award website https://www.opusklassik.de/ (in Germany)



Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno











Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium. Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue. Adequate ventilation is provided in the auditorium. Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより - 2021年シーズン今後の定期演奏会

11月の定期演奏会

11月1日(月) 19:00 サントリーホール 11月3日(水・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 11月4日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮: アンドレア・バッティストーニ (首席指揮者) フルート: トンマーゾ・ベンチョリーニ*

バッティストーニの作品 ーバッティストーニ/フルート協奏曲『快楽の園』ベボスの絵画作品によせて*(2019)(日本初演)チャイコフスキー/交響曲第5番



【料金】SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500 ※残席状況は東京フィルチケットサービスまでお問合せください。

お申込み·お問合せは 東京フィルチケット サービスまで 03-5353-9522(平日10時~18時/土日祝休)
https://www.tpo.or.jp/(24時間受付·座席選択可)

News & Information

バッティストーニ&東京フィル、 2021年OPUS KLASSIK 20/21世紀部門受賞

首席指揮者アンドレア・バッティストーニと東京フィルのコンビが日本コロムビア株式会社よりリリースしてきた「BEYOND THE STANDARD」全5タイトルのうち、第1弾『ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」/伊福部昭:シンフォニア・タプカーラ、ゴジ

ラ』の欧米盤(Denon/MDG より2020年7月発売)が、ドイツで最も権威のあるクラシック音楽の録音賞であるOPUS KLASSIK賞を20/21世紀部門で受賞しました。

国内盤:2018年4月日本コロムビア株式会社より発売 アンドレア・バッティストーニ指揮 / 東京フィルハーモニー交響 楽団『ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」/伊福部昭:シンフォニア・タプカーラ、ゴジラ』「COCQ-85414]



「第九」特別演奏会 詳細決定! 優先/WEB優先販売中!

日時·会場

12月23日(木) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

12月25日(土) 19:00開演 サントリーホール

12月26日(日) 15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

出演

ケンショウ・ワタナベ(指揮) 追田美帆(ソプラノ)/中島郁子(アルト) 清水徹太郎(テノール)/伊藤貴之(バリトン) 新国立劇場合唱団(合唱)



料金 S席¥11,000 A席¥8,800 B席¥6,600 C席¥4,400(稅込·全席指定)

発売日 最優先(養助会員・定期会員) 発売中、優先/WEB優先 発売中 (9月20日(月)23時59分までインターネットからのお申込みで10%OFF)

一般 9月21日(火)10時~

問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522

(平日10時~18時・土日祝休/9月11日(土)のみ10時~16時) 東京フィルWEBチケットサービス https://www.tpo.or.jp/

協賛 日本ライフライン株式会社(12/23)、楽天カード株式会社(12/25)、

楽天グループ株式会社(12/26)

ご挨拶 2021年8月をもってヴァイオリン奏者 黒沢誠登が定年退団いたしました。

東京フィルメンバーとしての最後の出演は8月21~22日の新国立劇場オペラ『Super Angels スーパーエンジェル』でした。

「皆様のご支援に支えられ40年もの長きにわたり、あらゆる 心にしみる音楽を体験でき自分にとって何回も感動を味わわ



©三好英輔

せていただきました。東京フィルのオーケストラはオペラやバレエが何日も続き夢の中にいるような体験でした。小さいころから見ていました大晦日の『NHK紅白歌合戦』で昨年演奏できましたのは忘れられない思い出です。今はコロナで大変ですが東京フィルのますますのご発展をお祈り致しております。長い間大変にありがとうございました」。長きにわたり、お疲れさまでした。今後のご活躍を祈念しております。

Photo Reports 2021年7~8月の演奏会より

7月の定期演奏会は名誉音楽監督 チョン・ミョンフンが 1 年4か月ぶりに来日を果たし、ブラームスの交響曲全曲演奏プログラムより「第1番」、「第2番」をお届けしました。「平日の午後のコンサート」では、療養期間中の尾高忠明に代わり気鋭の角田鋼亮が登場。8月15日恒例の「ハートフルコンサート」では副理事長の黒柳徹子のお話に、由紀さおりさんらをゲストに迎え、あたたかな雰囲気での開催となりました。

7月定期演奏会(7/1、2、4)

指揮:チョン・ミョンフン(東京フィル名誉音楽監督) コンサートマスター: 三浦章宏

一 ブラームス 交響曲の全て 一

ブラームス/交響曲第1番 八短調 Op. 68 ブラームス/交響曲第2番 二長調 Op. 73



マエストロ チョン・ミョンフンの来日は実に 1年4か月ぶり。リハーサル冒頭では、マエストロ自身のロックダウン中の生活について語られました



東京オペラシティ コンサートホールでのリハーサルより。オーケストラをぐいぐいと引き込むマエストロの円熟のタクトに、東京フィルが応えます



マエストロの指揮棒は、自宅の庭のオリーブやアーモンドの木からマエストロ自身が削り出して作成しているそう。ときに激しい指揮をするマエストロの手にフィットするように、丹念に紙やすりなどで削って作られたという完璧なタクトです





マエストロ チョン・ミョンフンと東京フィルとの関係は今年で20年目を迎えました。「最初の頃のリハーサルはひたすら厳しかった」と思い出を語るのはコンサートマスター三浦章宏。20年の関係を経て、よりシンプルに、また円熟味を増したマエストロのタクトがオーケストラを高みへと導きます



7月定期演奏会最終日、オーチャード定期演奏会より。最終日のリハーサルが始まる前、マエストロはオーケストラに向かってこう言いました「みなさんにお伝えしいことがあります。何だと思いますか?―― "ありがとうございました"です!」



カーテンコールではマエストロからも笑みがこぼれました

第22回 平日の午後のコンサート 〈テンポはマーチ〉(7/27)

指揮とお話:角田鋼亮(※)コンサートマスター:三浦章宏

※当初出演を予定しておりました指揮者の尾高忠明氏が体調不良のため、交代となりました。

古関裕而/スポーツショー行進曲 タイケ/旧友

J.F. ワーグナー/行進曲 「双頭の鷲の旗の下に」

厚伊玖磨/祝典行進曲

スーザ/行進曲[星条旗よ永遠なれ]

ロッシーニ/歌劇『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」 アンダーソン/トランペット吹きの休日

オッフェンバック/喜歌劇『天国と地獄』序曲より「カンカン」 レスピーギ/交響詩『ローマの松』より「アッピア街道の松」 【アンコール】

ヘンデル/オラトリオ『ユダス・マカベウス』より「見よ勇者は帰る」





マエストロ角田鋼亮のお話とともに。前半のプログラムは原曲どおり、吹奏楽編成でお届けしました

ハートフルコンサート2021

8月15日(日)東京芸術劇場

お話:黒柳徹子 ゲスト:由紀さおり*

中村力丸(中村八大ご子息)

指揮:栗田博文(※)

※当初出演を予定しておりました指揮者の尾高 忠明氏が体調不良のため、交代となりました。

コンサートマスター: 近藤 董

今井光也/東京オリンピック・ファンファーレ 古関裕而(栗山和樹編)/東京オリンピック・マーチ 中村八大/夢であいましょう 永六輔作詞・中村八大作曲/こんにちは赤ちゃん* 中村八大/「交響曲」より第4楽章 山上路夫作詞・いずみたく作曲/夜明けのスキャット* アンジェラ・アキ作詞・作曲/あなたにとって* 中村八大/上を向いて歩こう ドヴォルザーク(南安雄編)/わが母の教えたまいし歌 ドヴォルザーク/交響曲第9番『新世界より』から 【アンコール】ジョン・レノン/イマジン



ゲストの由紀さおりさん



中村八大の名曲「上を向いて歩こう」や「交響曲」より第 4楽章ほかが演奏されました 写真=Avano Tomozawa

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真=三浦興一/上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検 温を行っています



ホール入退場時の密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いいたします

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者とご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks Required



Physical Distancing



Fre

Frequent Cleaning and Disinfecting



mproved Indo
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。
ロビーや客席内での会話はお控えください。
ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。
頻回の手指消毒をお願いいたします。
場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。
客席内は十分な換気を行っております。

時差入退場にご協力ください。

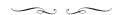
coops

「不許冠職入山門」

東急株式会社 代表取締役会長野本 弘文



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第5回は、東京フィルがフランチャイズを結ぶBunkamuraオーチャードホールの経営母体であり、2022年に100周年を迎える東急株式会社代表取締役会長の野本弘文様です。



東急グループが誇るゴルフ場、茅ケ崎にある「スリーハンドレッドクラブ」には、論語の「不許葷酒入山門(くんしゅさんもんにはいるをゆるさず)」を模した「不許冠職入山門」という言葉を標柱に掲出しています。これは東急グループ五島昇元会長が注力し手掛けたもので、「地位も年齢も関係なく交流しましょう」という意味を持ちます。

この言葉はゴルフ場に留まらず、東京フィルがフランチャイズ として演奏しているオーチャードホールのあるBunkamuraに も共通すると思っています。

私は、若いころはそれほど熱心に演奏会に足を運んではいませんでしたが、ここ数年はオーチャードホールで東京フィルを聴く機会をたくさん持つようになりました。

はじめは敷居の高そうな印象がありましたが、頭をまっさらにして音の圧や立体感を身体で感じながら聴いたり、演奏者による解説や映像付きで楽曲の背景が分かると自分なりにストーリーやイメージを膨らませながら自由に楽しめる魅力を感じています。

個人的にも毎年楽しみにしている公演はやはり「東急ジルベスターコンサート」です。テレビ東京で生中継いただき、東急グループとして大晦日の風物詩に育て上げたいと力を入れています。

2018年のロシア交流年には世界的なバレエダンサーのザハーロワさんと ヴァイオリニストのレーピンさん夫妻に共演いただいたり、2020年末の公演で はミュージカル『レ・ミゼラブル』の歌を司会の別所哲也さんと視聴者投稿映 像で合唱したりと、多くの方に楽しんでいただけるよう趣向を凝らしています。

カウントダウン曲は、演奏が進むにつれ客席でも緊張が高まり、終曲と同時に新年を迎えると、舞台と客席が一体となり、達成感や喜びで劇場が満たされます。

終演後にお客様の嬉しそうな感想が耳に入るのも楽しみのひとつです。帰路につくのは深夜遅くですが、新たな年を迎え、今年も多くの方々に喜ばれる仕事を続けていこうと気合が入ります。

東京フィルはオペラやバレエから、ジャズや映画音楽、ポップスまで幅広く

演奏されるので、耳なじみの曲に出会 う嬉しさや、その意外な魅力を発見す る楽しみもあります。表題の言葉は、音 楽ジャンルに囚われず交流しましょう、 と解釈することもできそうです。



野本弘文(のもと・ひろふみ)

1947年福岡県生まれ。1971年早稲田大学理工学部卒業後、東京急行電鉄株式会社(現:東急株式会社)に入社。2004年イッツ・コミュニケーションズ株式会社取締役社長、2008年東京急行電鉄株式会社専務取締役、2011年同社代表取締役社長、2018年同社代表取締役会長(現任)。2017(平成29)年より公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事。

東急株式会社様は、2022年に創立100周年を迎えます。創業以来、鉄道を基盤としたまちづくりを中心に、事業を通じた社会課題の解決に取り組んでこられました。現在においても、「美しい時代へ」というグループスローガンのもと、"サステナブル経営"を基本姿勢として事業を推進されています。

爽やかな秋風を感じる頃となりました。今月は、秋の訪れを感じるこの季節にふさわしい、荘厳で力強い演奏を皆様にお届けいたします。引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



牛膓 栄一

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

替助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。 ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、 改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社 代表執行役 会長 兼 社長 CEO 吉田 憲一郎 楽天グループ株式会社 代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

株式会社マルハン 代表取締役 会長 韓 昌祐

株式会社ロッテ 代表取締役社長執行役員

株式会社ゆうちょ銀行 取締役兼代表執行役社長 池田 憲人

法人会員

賛助会員 (五十音順·敬称略)

(株)IHI 代表取締役社長 井手 博 ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 片野坂 真哉 (株)アイエムエス (株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司 取締役会長 前野 武史 (医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一 大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎 アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務 (株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄 (公財)オリックス宮内財団 (株)アシックス 代表取締役会長CEO 尾山 基 代表理事 宮内 義彦 (株)インターテクスト 花王(株) 代表取締役 海野 裕 代表取締役 社長執行役員 長谷部 佳宏

カシオ計算機(株) 代	表取締役 社長 CEO	樫尾 和宏
キヤノン(株) 代表取締	役会長兼社長 CEO	御手洗 冨士夫
(株)グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株) J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニーグループ(株)代表執行	役 会長兼社長 CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント	代表取締役社長CEO	村松 俊亮
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎
都築学園グループ	総長	都築 仁子
東急(株)	取締役社長	髙橋 和夫
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一

トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)ニチイケアパレス	代表取締役社長	秋山 幸男
(株)ニフコ	代表取締役社長	柴尾 雅春
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株)パラダイスインターナショ	ナル 代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)三井住友銀行	頭取CEO	髙島 誠
三菱商事(株)	代表取締役 社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮﨑 毅
(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
ミライラボバイオサイエンス(株)	代表取締役	田中 めぐみ
(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天グループ(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス	代表取締役社長	畝森 達朗
欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗)東京大仏·乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹

 (株)トレミール
 代表取締役会長兼社長
 杏田 雅俊

 (株)日税ビジネスサービス 代表取締役会長兼社長
 吉田 雅俊

 富士通(株)
 代表取締役社長
 時田 隆仁

 本田技研工業(株)
 取締役 代表執行役社長
 三部 敏宏

 三菱地所(株)
 執行役社長
 吉田 淳一

 三菱電機(株)
 執行役社長
 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年2月下旬より数か月にわたり 東京フィルが出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。東京フィルの財源 は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存 続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、チケット払戻し辞退や、コロナ禍における活動に対してのご寄附等、温かいご支援をいただ いておりますこと、重ねて心より御礼申し上げます。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を継続してまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(32ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 (郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行· 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー交響楽団

- ※ご寄附の金額は自由に設定いただけます。
- ※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。
- ※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらからも取得いただけます。 https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ/寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団·広報渉外部 寄附担当 〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階 Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp Tel 03-5353-9521(+日祝日を除く10時~18時)

東京フィル 賛助会 会員募集中

2021年3月に東京フィルハーモニー交響楽団は創立110年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援 とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは一年の始まりである1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の新しい暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化するグローバル社会において心の豊かさを育み、文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人/パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口		
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。		
法人会員	賛助会員	50万円		
広人云貝	後援会員	30万円	※東京フィルハーモニー交響楽団は	
	ワンハンドレッドクラブ	100万円	内閣府により「公益財団法人」に認	
	フィルハーモニー	50万円	定されており、ご寄附の金額に応じ	
	シンフォニー	30万円	て税法上の優遇措置を受けることが できます。	
パートナー会員	コンチェルト	10万円	できます。 その他特典、お申込みや資料請求な	
	ラプソディ	5万円	ど、詳しくは東京フィル広報渉外部	
	インテルメッツォ	3万円	担当へお問合せください。	
	プレリュード	1万円		

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または 東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。 ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当:星野鹿笠)

電話: 03-5353-9521(平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」/「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校 や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体によ る巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数 での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届 けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁か ら5年間の長期採択を受け(2014~2018年度)、



小学校体育館でのオーケストラ本公演

東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校のベ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは次ページをご参照ください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様 とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラ シティ定期) ©上野隆文

東日本大震災"とどけ心に"特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、あらかじめ東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)にご連絡いただき、公演当日、開演の60分前以降に公演会場の招待受付にお越しください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」として活用させていただいてまいりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、運用を見合わせておりましたが、2021年1月定期よりご案内を再開いたしました。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使わせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス 電話:03-5353-9522(10時~18時/土日祝休)

7~8月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。 心より御礼申し上げます。

(五十音順·敬称略)

監物春夫、山崎郁子(他、匿名希望6名)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告·協**賛のお**問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 電話: 03-5353-9521(平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティコンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷/平日/休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏の他、2020年にはドキュメンタリー番組『情熱大陸』や『NHK紅白歌合戦』にも出演。また、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS https://www.tpo.or.jp/



©上野降文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokvo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督

Honorary Music Director

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung

首席指揮者

Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni

桂冠指揮者

Conductor Laureate

尾高 忠明 Tadaaki Otaka

大野 和士

Kazushi Ono

ダン・エッティンガー

Dan Ettinger

特別客演指揮者

Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ

Mikhail Pletney

アソシエイト・コンダクター Associate Conductor

チョン・ミン

Min Chung

永久名誉指揮者

Permanent Honorary Conductor

山田 一雄

Kazuo Yamada

永久楽友·名誉指揮者

Permanent Member and Honorary Conductor

大賀 典雄 Norio Ohga

コンサートマスター Concertmasters

近藤 薫

Kaoru Kondo 三浦 章宏

Akihiro Miura 依田 真官 Masanobu Yoda 第1ヴァイオリン First Violins

小池 彩織☆ Saori Koike 榊原 菜若☆

Namo Sakakibara 坪井 夏美☆ Natsumi Tsuboi

栃本 三津子☆ Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆ Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之 Yoshiyuki Asami

浦田 絵里 Eri Urata

景澤 恵子 Keiko Kagesawa

加藤 光 Hikaru Kato

巖築 朋美 Tomomi Ganchiku

坂口 正明 Masaaki Sakaguchi 鈴木 左久

Saku Suzuki 高田 あきの Akino Takada

田中 秀子 Hideko Tanaka 中澤 美紀

Miki Nakazawa 中丸 洋子 Hiroko Nakamaru

廣澤 育美 Ikumi Hirosawa

弘田 聡子 Satoko Hirota

藤瀬 実沙子 Misako Fuiise

松田 朋子 Tomoko Matsuda 第2ヴァイオリン Second Violins

戸上 眞里◎ Mari Togami 藤村 政芳◎

Masavoshi Fuiimura 水鳥 路◎ Michi Mizutori

宮川 正雪◎ Masavuki Mivakawa

小島 愛子☆ Aiko Koiima

高瀬 真由子☆ Mayuko Takase

石原 千草 Chigusa Ishihara

出原 麻智子 Machiko Idehara

太田慶 Kei Ota

葛西 理恵 Rie Kasai

佐藤 実江子 Mieko Sato

二宮 祐子 Yuko Ninomiya

本堂 祐香 Yuuka Hondo

山代 裕子 Yuko Yamashiro 吉田 智子 Tomoko Yoshida

吉永 安希子 Akiko Yoshinaga

若井 須和子 Suwako Wakai

渡邉 みな子 Minako Watanabe ヴィオラ Violas

須田 祥子◎ Sachiko Suda

須藤 三千代◎ Michiyo Suto

髙平 純◎ Jun Takahira

加藤 大輔(Daisuke Kato

伊藤 千絵 Chie Ito

岡保 文子 Ayako Okayasu

曽和 万里子 Mariko Sowa

高橋 映子

Eiko Takahashi 手塚 貴子 Takako Tezuka

中嶋 圭輔

Keisuke Nakaiima 蛭海 たづ子

Tazuko Hirumi 古野 敦子

Atsuko Furuno 村上 直子

Naoko Murakami

森田 正治 Masaharu Morita チェロ Cellos

金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki

服部 誠◎ Makoto Hattori

渡邉 辰紀◎ Tatsuki Watanabe

黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa 高麗 正史☆

広田 勇樹☆ Yuki Hirota

石川 剛 Go Ishikawa

大内 麻央 Mao Ouchi

太田 徹 Tetsu Ota

菊池 武英 Takehide Kikuchi

佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki 長谷川 陽子 Yoko Hasegawa

渡邊 文月 Fuzuki Watanabe コントラバス Contrabasses

片岡 夢児◎ Yumeii Kataoka

黒木 岩寿◎

小笠原 茅乃〇 Kayano Ogasawara

遠藤 柊一郎

岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto

小栗 亮太 Ryota Oguri

熊谷 麻弥 Maya Kumagai 菅原 政彦

音原 以序 Masahiko Sugawara 田邊 朋美

Tomomi Tanabe 中村 元優 Motomasa Nakamura

フルート Flutes

神田勇哉◎

Yuya Kanda 斉藤 和志〇 Kazushi Saito

razusni Saito 吉岡 アカリ〇 Akari Yoshioka

さかはし 矢波 Yanami Sakahashi 下払 桐子

下払 桐子 Kiriko Shimobarai 名雪 裕伸 Hironobu Nayuki オーボエ Oboes

荒川 文吉〇 Bunkichi Arakawa

加瀬 孝宏〇 Takahiro Kase) 佐竹 正史〇

Masashi Satake 杉本 真木

Maki Sugimoto 若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi

クラリネット Clarinets

チョ・スンホ© Sungho Cho

アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari 万行 千秋◎

Chiaki Mangyo 黒尾 文恵 Fumie Kuroo

林 直樹 Naoki Hayashi

ファゴット Bassoons

> チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe 廣幡 敦子◎

Atsuko Hirohata 井村 裕美 Hiromi Imura

Hiromi Imura 桔川 由美 Yumi Kikkawa

森 純一 Junichi Mori ホルン

齋藤 雄介◎ Yusuke Saito 高橋 臣宜◎

Takanori Takahashi 磯部 保彦

大東 周 Shu Ohigashi

木村 俊介 Shunsuke Kimura

田場 英子 Eiko Taba

塚田 聡 Satoshi Tsukada 豊田 万紀

Maki Toyoda 山内 研自 Kenji Yamanouchi

山本 友宏 Tomohiro Yamamoto

トランペット Trumpets

川田 修一〇 Shuichi Kawata

野田 亮〇 Ryo Noda

古田 俊博◎ Toshihiro Furuta 重井 吉彦

Yoshihiko Shigei 杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama

前田 寛人 Hirohito Maeda トロンボーン Trombones

五箇 正明© Masaaki Goka 中西 和泉© Izumi Nakanishi

辻 姫子〇 Himeko Tsuii

石川 浩 Hiroshi Ishikawa 小田 愛美

Manami Oda 平田 慎 Shin Hirata

山内 正博 Masahiro Yamauchi

吉江 賢太郎 Kentaro Yoshie

テューバ Tubas

大塚 哲也 Tetsuya Otsuka

荻野 晋 Shin Ogino

ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion

岡部 亮登◎ Ryoto Okabe

塩田 拓郎◎ Takuro Shiota

木村 達志 Tatsushi Kimura

鷹羽 香緒里 Kaori Takaba 縄田 喜久子

縄田 喜久子 Kikuko Nawata 船迫 優子

Yuko Funasako 古谷 はるみ Harumi Furuya ハープ Harps

梶 彩乃 Ayano Kaji

田島 緑 Midori Tajima

ライブラリアン Librarians

武田 基樹 Motoki Takeda

ステージマネージャー Stage Managers

稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka

大田 淳志 Atsushi Ota 古谷 寛 Hiroshi Furuya

tsuka Ž

> ◎首席奏者 Principal

○副首席奏者 Assistant Principal

☆フォアシュピーラー Vorspieler

役員等·事務局·団友

■ 役員等(理事·監事および評議員)

理事長 理事 監事 評議員 三木谷 浩史 浮舟 邦彦 岩崎 守康 伊東 信一郎 大賀 昭雄 山野 政彦 海老澤 敏 副理事長 大塚 雄二郎 佐治 信忠 黒柳 徹子 小山田 隆 鈴木 勲 篠澤 恭助 鈴木 啓介 専務理事 田沼 千秋 瀬谷 博道 石丸 恭一 日枝 久 寺田 琢 常務理事 遠山 敦子 南 直哉 工藤 真実 野本 弘文 韓 昌祐 平井 康文 宮内 義彦

事務局

楽団長 公演事業部 ステージマネージャー ライブラリアン 広報渉外部 総務·経理 石丸 恭一 市川 悠一 稲岡 宏司 武田 基樹 伊藤 唯 川原 明夫 岩崎 井織 大田 淳志 鹿又 紀乃 鈴木 美絵 事務局長 大久保 里香 古谷 寛 千木 加寿子 工藤 真実 大谷 絵梨奈 二木 憲史 佐藤 若菜 星野 友子 村尾 真希子 松井 ひさえ 安田 ひとみ

■ 団友

安藤 栄作	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 愼	細川 克已
池田 敏美	小榑 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穣司	細洞 寛
糸井 正博	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
今井 彰	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
井料 和彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
植木 佳奈	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
上野 眞行	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
生方 正好	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大兼久 輝宴	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介
大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳	

〈発行日〉 2021(令和3)年9月16日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523 フランチャイズ·ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 欧文印刷株式会社

新しい景色をみたい

In Search of a New Scene